東北大学
災害科学国際研究所

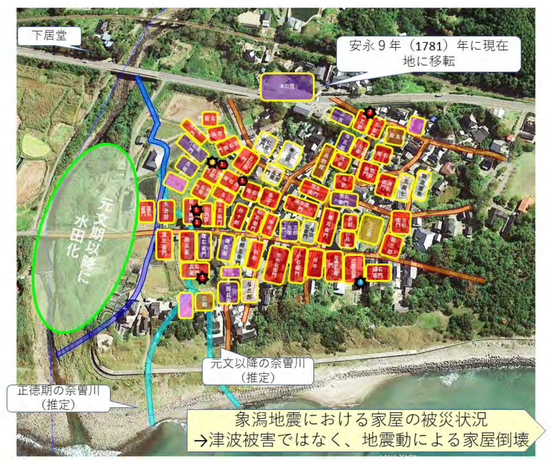
PO3

アーカイブユニット
令和元年度活動成果

シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅲ」

2019年7月21日（日）にシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅲ～日本の災害文化～」を開催した。今回は津波工学研究の第一人者である首藤伸夫名誉教授の基調講演をはじめ、東北地方太平洋岸の津波伝承と忘却、最新の津波発生連絡システム、石碑情報と地域防災の関連性、福島県双葉郡の原発被災地域における歴史継承や宮城県南三陸町における史料救出と地域史への還元についての報告、また講演者、報告者、コメンテーターによるパネルディスカッションをおこなった。また同シンポジウムの成果については、3月に報告書を刊行した。

1804年象潟地震の歴史史料調査と地形復元分析



秋田県由利郡にかほ市関地区の関村伝来文書群の調査を実施し、その中で1804年象潟地震における被害に関する史料情報から、関村集落の家屋被害分布図を作成した。この家屋被害の状況から、象潟地震における関村の被害は津波ではなく地震動によるものであることを明らかにした。

市民協働による古文書解読を通じた情報環境整備

解読会（2019年8月）

公開された解読文　慶応4年6月
不天気を制御できない幼帝（明治天皇）批判／北上川の大洪水

岩手県一関市の個人宅に伝わる、約2100頁におよぶ江戸時代の日誌「丸吉皆川家日誌」の全文解読を、市民との協働で進めている。2019年度は約52000文字の解読を行った。また、以前に実施済みの慶応3年（1867）9月～明治5年（1872）の約13万文字について電子媒体化した（2020年6月東北大学学術リポジトリTOURにて公開）。慶応4年～明治3年の戊辰戦争が起こった時期の低温・凶作と社会対応など、歴史災害や社会の状況を検討するための情報基盤整備に資する共有を進めた。

ハーバード大学とのデジタルアーカイブの共同WSの開催

2019年12月　ハーバード大学（ボストン）

2020年2月　宮城教育大学

ハーバード大学ライシャワー日本研究所「日本災害DIGITALアーカイブ(JDA)」プロジェクトと東北大学災害科学国際研究所「みちのく震録伝」は，国際交流基金日米センターの協力を得て，アメリカのボストンと日本の仙台でワークショップを開催しました．また，宮城教育大学防災教育研修機構の小田准教授にご協力をいただきました．
本ワークショップは，ハーバード大学日本災害DIGITALアーカイブを教育現場での活用するために，大学，高校などの教員などをお招きして，デジタルアーカイブの利用方法のレクチャーを実施しました．ワークショップでは，各班に分かれて，デジタルアーカイブから資料を探し，自分たちでプレゼンテーションを作成して，最終的に各班で発表を行いました．日米ともに20名以上の参加がありました．

東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）

岩手県陸前高田市の高田松原復興祈念公園内の東日本大震災津波伝承館（愛称：いわてTSUNAMIメモリアル）が2019年9月22日に開館した．本伝承館は，震災津波伝承館施設検討委員会（委員長：岩手大学南教授，副委員長：柴山准教授）が内部の基本方針を決め，内部の詳細設計を南教授と柴山准教授で監修を行った．また，個々の展示で災害研の蝦名准教授，リズ准教授，山下准教授，ユリア助教などが監修に参加した．開館から4ヶ月弱で10万人の来場者を記録した．

歴史資料アーカイブ技術の共有イベントの開催

近年開発された最新の歴史資料アーカイブ技術の共有のため、2019年10月23日にひかり拓本実演講習会、2020年２月27日に公開フォーラム「被災地と史料をつなぐⅡ―令和元年台風19号における被災資料レスキューと現状を開催し、各地での台19号被害の状況を共有するとともに、文化財マップを活用した資料保全活用や超高精細スキャニング装置の講習会および実演ワークショップをおこなった。また、同フォーラムのワークショップとして丸森町の被災状況の視察と同地でのひかり拓本実演講習会を実施した。

東日本大震災かたりベシンポ「かたりつぎin大船渡」

東日本大震災の記憶と記録を後世に伝え残すために，俳優竹下景子さんをお招きした東日本大震災語りベシンポジウム「かたりつぎin 大船渡」を2019年3月7日に開催した．
新型コロナウィルスの感染拡大の防止のため無観客のインターネット中継で実施した．閲覧者は1000名を越えた．
(1)挨拶　戸田公明市長（大船渡市）
(2)講演　角田陽介（復興庁統括官付参事官付企画官）
(3)報告　柴山明寛准教授（災害研）
(4)合唱　大船渡中学校とアカペラユニットXUXU
(5)朗読　竹下景子（俳優）

東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム

国立国会図書館との共催の東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムを2020年1月11日に実施した．震災伝承施設と震災アーカイブをテーマに，ハワイ太平洋津波博物館の館長のマーリーン・スー・ムリー氏の特別講演をいただいた．
さらに，2018年北海道胆振東部地震で被災を受けた厚真町や2016年熊本地震のアーカイブを行っている熊本大学などから報告をいただいた．東日本大震災関連として，釜石市のいのちをつなぐ未来館や東日本大震災津波伝承館などの報告も行われた．参加者は，170名程度の来場があった．

アーカイブの国際連携と活動

岩手県東日本大震災津波伝承館とアチェ津波博物館との連携を支援するために，2020年2月にインドネシアのアチェ州を訪問しました．災害アーカイブ研究分野では，東日本大震災10周年の特別展示についてアチェ津波博物館と協議し，アチェ津波博物館内に展示できることに同意が得られました。展示は，2021年1月頃を予定している．さらに，ハワイ太平洋津波博物館も同様な展示を行う予定である．

記念撮影の様子（アチェ津波博物館のスタッフ、岩手県職員、東北大学の代表達）

三大学によるデジタルアーカイブの教育実践

2019年12月にハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所（ボストン）において，東北大学の国際共同大学院の学生7名と熊本大の学生3名で東日本大震災デジタルアーカイブを用いた発表とハーバード大学の学生交流を行いました．
東北大は，柴山准教授，ボレー准教授，ユリア助教，熊本大は，竹内准教授と山尾名誉教授．ハーバード大は，のゴードン教授が参加し，学生の発表について議論を交わした．本教育実践は，2015年度から実施しており，今回で5回目で計24名の東北大の学生を派遣している．